

■ (6) 統合版とセット版の違い

2011. 11. 11

まず、前回の問い掛けの答えですが、「東日本大震災」直後の紙面数が少なくなったのは、広告がほとんど載らなかったことに加えて、印刷工場で輪転機などの機械が壊れたり、停電で稼働しなかったからです。また、被災地の海岸沿いには製紙工場が多くあり、用紙の入手が困難だったことも理由の一つです。朝日新聞の場合、被災地へは遠く離れた東京都内や群馬県藤岡市から刷り上がった新聞を運びましたが、品薄の軽油・ガソリンを節約するために、新聞を薄くしてトラックの搭載部数を多くする必要もありました。

ところで、5つの版のうち、12版▲と13版▲はどちらも夕刊のない地域の朝刊です。前日の夕刊のニュースと一緒にいるため、「統合版」と呼ばれています。夕刊があるのが当たり前だと思っている人が多いようですが、どの全国紙でも統合版エリアのほうが広いのです。一方、朝夕刊あわせた新聞を「セット版」と呼び、朝刊の13版、14版に、夕刊は3版、4版が対応します。

「14版」だからといって、すべての紙面が14版になっているわけではありません。全面広告の紙面や特集記事など、ニュース性が強く要求されないような紙面では、最初の版を通すことが多いようです。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)